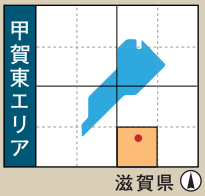
史跡
国指定

垂水斎王頓宮跡

たるみさいおうとんぐうあと

土山町頓宮　昭和19年6月26日指定



斎王頓宮とは、天皇家および古代国家の信仰の中心だった伊勢神宮に奉仕する斎王が、都から伊勢に向かうまでの道中（群行）に設けられた宿泊所です。近江には近江国府、甲賀、そして垂水の3カ所の斎王頓宮が置かれました。

当時のできごと	
673年	天武天皇即位
887年	藤原基経　関白となる（関白の初め）
1016年	藤原道長　摂政となる

斎王について

新しく天皇が即位すると、内親王（天皇の子女または天皇の姉妹）の未婚者、これに該当者がいないときには女王（天皇の兄弟の子女）の未婚者の中から、占いにより斎王が選ばれます。選ばれた斎王は2年にも及ぶ厳しい潔斎の後、伊勢に向かって群行しました。

一行は、6日間の日程で伊勢国多気郡（現在の明和町）にある斎王宮（史跡斎宮跡）に入ります。斎王は、ここで天皇に代わり、ひたすら皇祖天照大神への祭祀に奉仕する生活を送りました。

斎王は、制度的に整備された天武天皇朝から、廃止された後醍醐天皇朝までの六百数十年の間に60人余り（最年少2才、最年長28才）が占いで選ばれています。斎王は何らかの事故がない限り、自分の代の天皇が即位している間、伊勢神宮に奉仕しました。

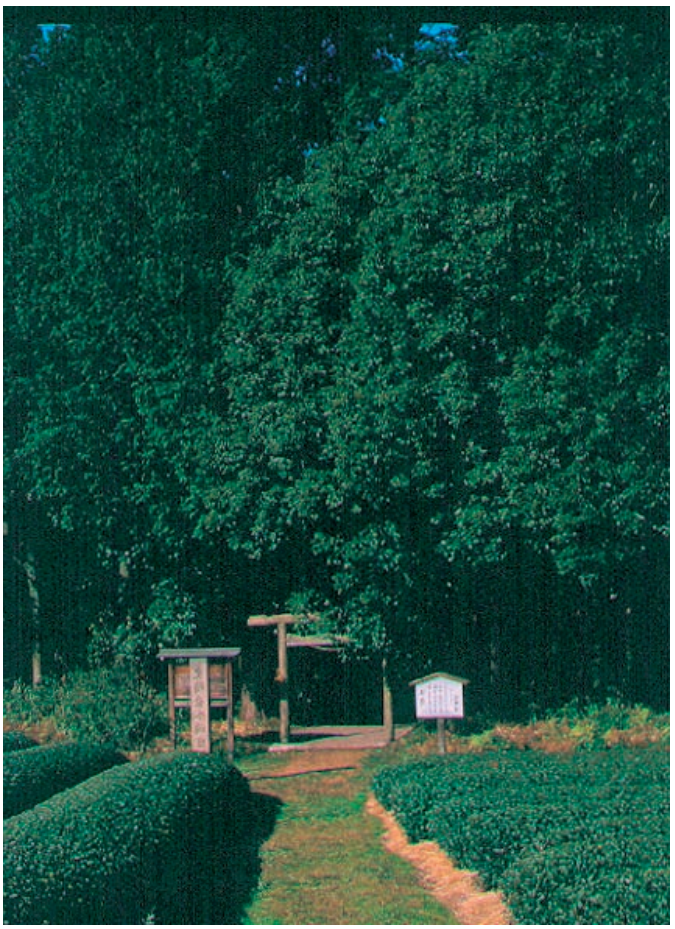


史跡内の状況

斎王群行

2年に及ぶ潔斎の後、斎王は伊勢に向かって群行します。付き従った人は、寛喜3年（1231）の斎王式乾門院利子内親王の群行の際には、800人におよんだと記録されています。

群行の経路は、平安時代初期までは伊賀国を経由していましたが、仁和2年（886）以降、近江国府、甲賀、垂水、鈴鹿、一志を経て斎王宮に参入しました。群行に先立ち、日本国中で大祓を行い、京、畿内および経路に当たる国では、仏教的な行事が1ヶ月間禁止されました。斎王が、凶事により退任し、都に帰るときにはこれとは別の経路をたどりました。



史跡の所在する森



現代の斎王群行。毎年3月に土山町で行われている

垂水頓宮

垂水斎王頓宮は、仁和2年6月に東海道の一部が変更され、新たに開通した「阿須波道（あすはみち）」に沿って造られ、その後、長和5年（1016）鈴鹿の関に近距離であることを理由に廃止されました。

垂水頓宮跡は、現在の東海道である国道1号線に沿った丘陵上にあり、東西が64m、南北73m、高さ1mの土塁に囲まれた中に井戸が1基残るのみです。仁平3年（1153）の記録では、大風で、瀬田頓宮の建物60棟あまりが倒れたとあります。この土塁囲いの中に、このようにたくさんの建物を建てることはできませんので、関連する施設が史跡地の周辺に広がっている可能性があります。



国道1号線より史跡を遠望する

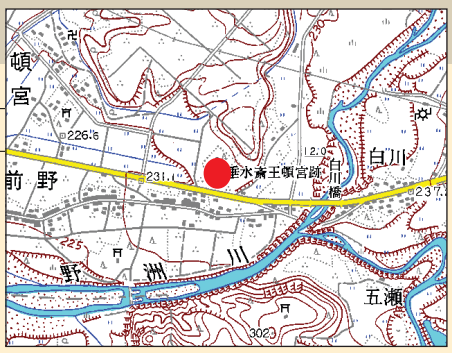
関連する文化財

近江国庁跡（大津市）	学習シートNo.008
史跡斎宮（三重県明和町）	斎王宮の遺跡。近年整備され、展示施設も整う
伊勢神宮（伊勢市）	天照大神を祀る

もっと深く知りたい

土山町立歴史民俗資料館　☎0748-66-1056　甲賀郡土山町北土山2230

滋賀県埋蔵文化財センター　☎077-548-9681　大津市瀬田南大萱町1732-2



垂水斎王頓宮跡へのアクセス　JR草津線　油日駅下車
国道1号線横

【参考文献】〔図説日本の史跡〕同朋舎　〔近江の遺跡〕（財）滋賀県文化財保護協会

滋賀県教育委員会事務局文化財保護課　平成16年3月